

28週後...

2007(平成19)年12月10日鑑賞(東宝試写室)

★★★



監督・脚本=ファン・カルロス・フレスナディージョ/出演=ロバート・カーライル/キャサリン・マコーマック/イモーゼン・プーツ/マッキントッシュ・マグルトン/ローズ・バーン/ジェレミー・レナー/ハロルド・ペリノー/イドリス・エルバ (20世紀フォックス映画配給/2007年イギリス、スペイン映画/104分)

……監督を代えて面白いアイデアで登場したのが、『28日後... (28 DAYS LATER)』の続編たるこの『28週後...』。恐ろしいウイルスが絶滅し、感染者たちも死滅した今、第1街区ではやっと復興の第一歩が始まったが、2人の子供たちの帰国によって新たな大騒動が……。『バイオハザード』シリーズのアンデッドと異なり、こちらの感染者は動きがスピーディーだから、対応もスピーディーでなければ……。そのため、映画はメチャ面白く、迫力十分。しかして、その結末は……？



1作目よりも2作目の方が……

ダニー・ボイル監督の『28日後... (28 DAYS LATER)』(02年)は、感染症によってロンドンが死のまちなってしまうという恐ろしい映画だった(『シネマルーム3』236頁参照)が、この『28週後...』はその続編。すなわち、ロンドンを覆いつくした感染者たちは食料難で死に絶え、あれほど猛威をふるったウイルスも死滅したため、18週後に感染の恐れなしと認定。24週後、復興計画開始。そして復興に向けて動き始めたのが28週後というわけだ。なるほど、なるほど……。

今ロンドンのまちは米軍が主導する NATO 軍の武装兵によって守られているが、これは強固な米英の絆によるもの。しかし、イラクが終われば次はイギリスと、アメリカ兵も大変……？ もっとも、ロンドンのまちは復興の第一歩を歩み始めたばかりだから、現在アメリカ兵の警備の下に安全に住めるのはアイル・オブ・ドッグスの第1街区だけで、そこから外へは立入禁止。しかし、徐々にこの安全区域を拡大してい

けば、近い将来ロンドン全体の復興も視野に入るはず……。

そんな2作目の監督は1作目のダニー・ボイルからファン・カルロス・フレスナデージョに変更されたが、どうもこの監督変更がうまくフィットした様子。つまり私の目には、1作目よりもこの2作目の方がグッド……。

この映画の主人公は……？

この映画は、全般を通してスピーディーでスリリングそして迫力十分。それを実感させられるシーンがまず映画の冒頭に登場する。すなわち、ドン（ロバート・カーライル）とその妻アリス（キャサリン・マコーマック）は、4人の仲間と共にロンドンのとある山荘に立てこもって暮らしていたが、ついにある日こども感染者たちから襲われることに。

そのきっかけとなったのは、事件当時、学校の休みでスペイン旅行中であったため難を免れ、今は離れ離れとなっている長女タミー（イモーゲン・プーツ）と長男アンディ（マッキントッシュ・マグルトン）のことを恋しく思っているドンとアリスが、ある日家のドアをたたいて必死に助けを求める少年を山荘の中に招き入れたため。すなわち、それによってこの山荘の中に人間が住んでいることを知った感染者たちは、一気にここを急襲することに。その攻撃からかろうじて逃れることができたのは、結局ドン1人だけで、ドンから見捨てられたアリスを含めてあとは全滅……？

こんな迫力ある冒頭のシーンを観ていると、この映画の主人公はドンだと誰もが思うはずだが……。

入国チェックが厳しいのは当然

タミーとアンディは今ロンドンに戻ってきたが、その入国審査は眼球チェックをはじめメチャ厳しいもの。ちなみに、日本では11月20日に施行された改正出入国管理・難民認定法によって、外国人の入国については指紋採取と顔写真の撮影を義務づける制度が変わった。また先日私が耳にした話によると、エイズ患者の拡大を恐れる中国では、帰国した中国人について、疑わしい者に対して血液採取をすることができるようになったらしい。これがホントであれば、その運用如何は大問題……。このニュースがどこまで正確かは知らないが、ウイルス感染によって死のまちと化したロンドンにおいては、それくらいの厳格な入国チェックは当然のこと。

そんな厳しいチェックの結果、タミーもアンディもオーケーとなったが、現時点でアンディは第1街区で最も若い人間とのこと。子供だからといって差別する必要はないが、子供であるが故に問題をひき起こす可能性も……。

あっと驚く仕掛けは……？

この種の映画は何よりもアイデアが大切で、あっと驚く仕掛けがなければ全然面白くない。しかしてこの映画のそれは、タミーとアンディが秘かに第1街区を抜け出して実家に戻ろうとしたこと。その動機は、「奴らに襲われて亡くなってしまった」母親の顔すら思い出せないと言ったため、家族写真を取りに戻るといったわいもないものだったが、そこでタミーとアンディが出会ったのは……？ それは、何と死んだはずの母親アリスだったからビックリ！

脱出した子供たちを探索に出かけた米軍チームによって子供たちとアリスは保護されたが、「奴ら」に襲われながら、なぜアリス1人だけ今なお生きていたの……？ また、アリスは凶暴性を見せないが、それって、アリスは感染していないということ……？

そんな疑問が次々と湧いてくる中、映画は当然のように次のストーリー展開へ。こちらあたりのファン・カルロス・フレスナディージョ監督の力量は相当なもの……。

家族の絆にも微妙なカゲが……

父親ドンからの曖昧な説明で、母親は死亡したと聞かされていたタミーとアンディ、とりわけ年頃の長女タミーがドンに対して不信感を持ち始めたのは当然。そして、ドンはタミーから追及されると、心にやましいものが……。

それは、あの時なぜアリスを助けようとせず、自分だけが逃げ出したのかということだ。そう、たしかに今ドンは第1街区のリーダー的な地位についているが、映画冒頭における逃げ方になんか違和感を感じたのは私だけではないはず。そんな、自己にやましい気持ちを否定できないドンは、ベッドに横たわっているアリスの姿を見ると、まだウイルスを研究する米軍の女医スカーレット少佐（ローズ・バーン）の管理下で観察中であるにもかかわらず、勝手に部屋の中に入っていくことに。そして愛しさのあまり、ドンはアリスの顔に顔を寄せていき濃厚なキスを交わしたが……。

家族の絆に微妙なカゲが落ちる中、ここで起きる、あっと驚く次の仕掛けは、あ

なたもきつと予想できるはず……？

3人の米軍人が重要な役割を……

この映画では3人の米軍人が重要な役割を果たしている。1人は前述の軍医スカーレット。アリスの感染を確認したスカーレットは彼女の免疫力に着目し、アリスから感染に対抗できるワクチンを開発できるのでは、と考え、それを米軍責任者のストーン大佐（イドリス・エルバ）に提言。たしかにこの方向性は正しいと誰もが思うはずだが、アリスに免疫力があればタミーとアンディの2人の子供がその血を受け継いでいる可能性が強いが、夫のドンは当然ムリ。すると、ひょっとしてドンがアリスとの濃厚なキスによってだ液から感染でもすれば、第1えらいことに……？ 次に、特殊部隊の狙撃手のドイル軍曹（ジェレミー・レナー）もヘリコプター操縦士のフリン（ハロルド・ペリノー）も、映画冒頭からその姿を見せているが、毎日毎日お決まりの警備任務に緊張感のないことおびたしい。特にドイルの毎晩のお楽しみは、ライフルのズームを使って覗きをすることだから、米軍の士気の弛緩よりはひどいもの。しかし映画後半、このドイルはタミーとアンディそしてスカーレットを引率した脱出劇のリーダーとして大活躍。また、フリンも友人ドイルのために自分の意思をしっかりと示しながら、存在感を見せつけてくれる。こんな姿を見ていると、彼らもイザとなればしっかりその役割を果たすものだと大いに感心！

主人公は2人の子供たちに！

安全だったはずの第1街区で感染者発生！ 1人の感染者の発生は次々と感染が広がることを意味するから、指揮官の決断が急を要するのは当然。そこでストーン大佐が下した決断は、異常事態を示す「コード・レッド！」。これはすなわち、「感染者識別不能。全員射殺せよ」ということだ。

12月8日に観た『ミッドナイト イーグル』（07年）での渡良瀬総理のナパーム弾投入の決断の遅さと対比して、ストーン大佐の決断の早さはさすが！ それはともかく、これによって第1街区がパニック状態に陥ったのは仕方ない。もはや感染者か正常者か全く区別がつかない中、米軍は次々と住民たちを射殺していったが、「コード・レッド！」の次の段階は、ウイルスを封じ込むための焼却、すなわちナパーム弾の第1街区への投下だ。

そんな「攻撃」が予定される中、フリンと連絡を取りながらドイル軍曹率いる一団の行方は……？ それがこの映画後半の大きな見どころ。そして今やロンドンの未来はウイルスへの免疫力をもつ可能性のあるタミーとアンディの2人の子供たちに託されることに。したがって、映画後半の主人公は完全に2人の子供たちだ。

さあ、緊張感の欠如した『ミッドナイト イーグル』と好対照な『28週後...』のスリリングでスピーディーな脱出劇を心ゆくまで堪能しよう。

ラスト2～3秒もお見逃しなく！

この映画にはあっと驚く仕掛けがいろいろある。また、感染者の攻撃がスピーディーかつ迫力があるので、思わずドキッとするシーンもたくさん登場する。それはそれでこの映画の大きな見どころだが、ラスト2～3秒にはさらにあっと驚くシーンが登場するので、お見逃しなく！

そのシーンは、例によって感染者たちから逃げ回る市民たちの姿。そして、何とその向こうに映るあの有名な塔は……？ ひょっとして、第3作のタイトルは『28カ月後...』……？

2007(平成19)年12月11日記